



横浜中地区

県立高校男子生徒



神奈川県高等学校

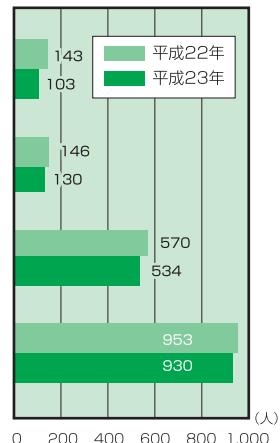
# 交通安全教育資料

特集

## あれこれ 自転車ア・ラ・カルト



平成 22・23年  
県内高校生交通事故状態別  
死傷者数の推移  
(県警調べ・保健体育課作成)



**自転車事故、全体の50%超**

件数は減少しているものの比率は増加

平成二十三年中の県内高校生の交通事故発生状況がまとめられました。県警によると、交通事故発生件数は一八六六件で、前年に比べ九四件減少し、相変わらず減少の傾向を示しています。内、死者は自転車乗車中と自動車同乗中による二名で、前年に比べ二名の減少となっています。

また、死傷者を状態別に見ると、死傷者一六九八名の内、自転車乗車中が九三〇名、バイク乗車中が五三四名、自動車乗車中が一三〇名、そして、歩行中が一〇三名で、すべての項目が前年と比べわずかに減少していることがわかります。(グラフ参照)

しかし、割合で見ると、半数を超える全体のおよそ五五パーセントが自転車乗車中に死傷しており、近年、いかに自転車事故の危険性が増しているかを窺い知ることができます。

昨年、五月一日に県道法が改正され、自転車乗用中の携帯電話の使用とヘッドホンの使用が取締りの対象になり、指導が強化されました。かたや、警察庁が自転車の車道走行を打ち出すなど、自転車を巡る情勢も変化を見せてています。一方で、身近なところに目を向けると未だに自転車の右側走行や夜間の無灯火運転といった危険運転が多く見られるのも事実です。

各校においては、生徒に対しあらためて交通ルールの徹底を図り、自転車運転の危険性を認識させるなどの指導が求められます。

第47号(平成24年3月号)

私は交通事故にあったことがあります。中学校一年生のときです。その日は休日で部活動もなく、友達と一緒に遊んでいました。友達の中に自転車を持ついない子が一人いて、遊び場を変えるたび、いつも一人遅れて走ってついて来ました。「一人乗りしよつか。」私は軽い気持ちで誘いました。体が大きな友達が前に私は後ろに。中学生の私たちにも「一人乗りが違反」と言うことは、わかつっていました。しかし、いつも一人で走ってくる友達を思うと「一人乗りすることが優しさなのだと思います」。

一人乗りだった私たちは、周りから少し遅れ、下り坂を少し急いでいました。自転車のスピードが上がりしていくと、車が駐車場などに入る際、入りやすいうように歩道が少し斜めになつて、凹んでいる所にさしかかりました。その瞬間、自転車はフワットと浮きあがり、私は自転車から落ちました。ドスッと鈍い音をたてて地面に転げ落ちると、突然全身が震え始めたのです。わけが分からず、怖くなつた私は震えを止めようと思いついたが、体が動きません。自分のカラダが自分のモノでないかのように、私の意思とは反対にカラダがブルブルと震え上がるのであります。自分ではどうすることもできず、助けを求めるようにも全身が震え上がっているせいか、上手く声が出ないので。「助けて」震える声で精一杯、助けを求めました。震えが止まつた後、私はすぐに救急車に乗せられました。最初は、椅子に座つて隊員さんに話を聞かれていましたが、急にふらつき、意

昨年十一月二十五日、秦野市立南が丘小学校において、県立秦野総合高校女子生徒らによる交通安全教室が実施されました。これは、秦野総合高校が「福祉」の授業の一環として南が丘小学校一年生児童を対象に行っているもので、当日は児童たちを四グループに分け、それぞれの教室で生徒たちが事前に準備してきた絵やフラカード、音楽などを使って児童たちに交通安全の大切さや事故のおそれしさを訴えかけました。児童たちの反応もよく、高校生の説明や呼び

## 高校生が小学生に出前交通安全教室

→ 県立秦野総合高校の取り組み

かけに真剣に聞き入る姿が見られました。(表紙写真参照)

さて、みんなの交通安全教育推進運動「スタートかながわ」ではその理念の一つに中学との接続が挙げられています。今回のケースは高校と小学校との接続ということでたいへん稀なケースといえますが、「スタートかながわ」の今後のあり方を考えるうえで大いに参考になります。

私は幼少期からサッカーに励み、事故当時の十三歳の時点では既に八年間、人生の半分以上をサッカーに費やしてきました。だからこそ、医師の「三年間は完治しない」と言う言葉は、頭の傷より深く私の心に突き刺さりました。手術で開いたほんの数ミリの隙間に對し、あまりにも長すぎる時間です。

しかし、成長期だったこともあってか回復が早く、

私の過去を繰り返さないために、私は言います。私の過去を胸に。私の大切な人たちの安全を守るために。「一人乗り反対。」

も遅いのです。

私の過去を繰り返さないために、私は言います。本当の優しさを胸に。私の大切な人たちの安全を守るために。「一人乗り反対。」

間は埋まっていなく、安全を考え自宅療養をしました。頭の怪我のため、リハビリなどはなく、頑張ることさえ許されず、ただただ何も変わらない日々を過ごしていました。やがて登校が可能になりました。頭の傷を隠すため、私は毎日一ツ帽を被つて行きました。学校の授業中も、夏も、外にいるときは常に手足とは違い、治るのに時間がかかります。私は医師から「三年間は完治しない」と告げられました。それでも、どこか陽気にうなづいていた私ですが、頭に巻かれた包帯を取ると、思わず目を背けてしまった程の傷が、どうにも覆すことのできない現実が、痛々しく頭に刻まれているのに気づきました。目を覚ました私の姿を見て、安堵した家族も頭の傷を見た瞬間、言葉を失いました。

私は幼少期からサッカーに励み、事故当時の十三歳の時点では既に八年間、人生の半分以上をサッカーに費やしてきました。だからこそ、医師の「三年間は完治しない」と言う言葉は、頭の傷より深く私の心に突き刺さりました。手術で開いたほんの数ミリの隙間に對し、あまりにも長すぎる時間です。

しかし、成長期だったこともあってか回復が早く、

私が傷を生み、一步間違えば友達に怪我をさせてしまったかも知れないのです。「自分は大丈夫」そう私も思っていました。「あの時こうしていれば事故を起こしてから後悔しても遅いのです。

私の過去を繰り返さないために、私は言います。本当の優しさを胸に。私の大切な人たちの安全を守るために。「一人乗り反対。」

# あれこれ 自転車ア・ラ・カルト

教師向け資料

みんなの交通安全教育推進運動「スター<sup>ト</sup>かながわ」が始まり、一年が経とうとしています。これは、「かながわ新運動」を継承・発展させ、「遵法精神」「生命尊重」「思いやり」の理念のもとに、高校だけではなく、小学校や中学校、地域・保護者と協力・連携し、みんなの交通安全として、生涯にわたって交通社会を安全に生きていく力を身につけていくこうこう運動です。

さて、自転車事故は、交通事故件数の減少にも関わらず、その割合は増加の傾向にあります。中でも加害事故への注意喚起も必要です。自転車は楽な乗り物であると同時に高速移動の手段にもなることを忘れてはなりません。今回は「自転車あれこれア・ラ・カルト」として、自転車に関する基本的な話題をいくつか紹介します。

## 自転車の種類いろいろ

自転車といつてもさまざま  
な種類があります。ここ  
では、代表的なものを取り  
上げ、その特徴を比較しま  
す。

①シティサイクル  
短距離の買い物、通勤、  
通学に使われる実用車で一  
般的に知られるのはこのタ  
イプです。ママチャリとも  
呼ばれています。

⑤アリックレー<sup>サ</sup>  
トラック（競技場）  
を走るように作られた  
直線と曲線の組合せ

に使われます。



防犯にとつて大切なこと

県警によると、昨年一年間の県内の自転車窃盗件数は窃盗件数全体の一八・五%を占める一八〇四件でした。この数字はあくまで認知件数ですから、実際にほんと多くの盗難被害が起きていくと思われます。

自転車盗難の主な原因は、鍵のかけ忘れです。やはり防犯対策には第一に施錠する(出来れば二重施錠)ことが大切です。

万一、盗難被害にあってしまったら、近隣の警察署に盗難届を出しましょ

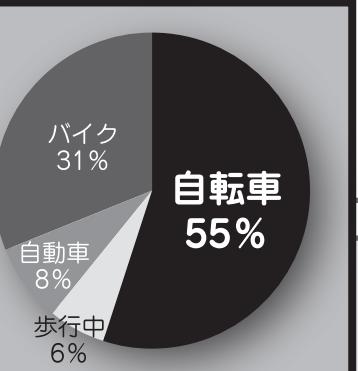
う。そのためにも、あらかじめ自転車購入時に加入が義務づけられ、ている防犯登録番号か車体番号を控えておく事が必要です。

各学校で、自転車通学届と引き替えに交付されるスティッカーも、乗り捨て・放置されていた場合の連絡に役立っています。

いずれにせよ、日々の施錠の習慣が大切です。

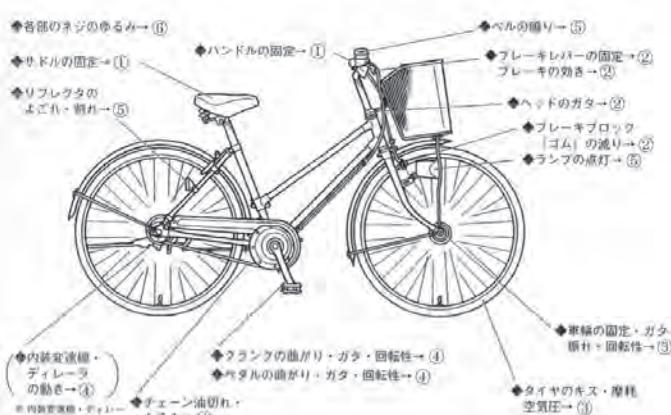
# 自転車事故の 割合が高い！

## 平成23年 県内高校生状態別死傷者数より (県警調べ・保健体育課作成)



# 自転車点検について

事故防止のためにも点検は必要です。そこでは日常点検の項目を紹介します。



## セイマツ まな自転車保険

自転車による加害事故の増加とともに、高額な損害賠償を請求されるケースも現れるようになりました。しかし、保険会社は、二〇〇四年以降、採算面で問題のあつた自転車総合保険の個人加入を取りやめたり、自転車総合保険自体を廃止したりしています。

自転車総合保険に代わるものとして、学生（じゅうども）総合保険などがあります。日常生活中のケガや日常生活中の賠償責任までも幅広く補償していますが、掛け金はその分、高いものとなります。

いると言われるものの多くがこの特約です。自転車保険には示談交渉サービスが付いていなかつたのですが、今は特約などで付いている商品もあります。また、示談交渉サービスは付いていませんが、全高P連賠償責任補償制度もあります。

その他に個人賠償責任保険があり、単独で加入する方法と傷害保険や火災保険、自動車保険の特約として付ける方法があります。保護者から既に加入して

保険は保険会社の商品構成によつて補償内容や掛け金が多種多様であり、比較・紹介をするのが難しいところがあり、充分な注意が必要です。しかし、自転車による加害事故の増加を考えると、各学校において加入をいつそう強く勧める必要があるでしょう。